

会計専門コース2年
高野 洸輔

試験対策

私は、受験本番と同じ時間帯を意識して勉強をするようにしていました。短答では、午前企業法と管理会計を、午後に監査論と財務会計を勉強し、論文では午前監査論と管理会計と企業法を、午後に租税法と財務会計と経営学を勉強しました。また、計算では、どのような状態でもケアレスミスをしないうに一番集中力が切れる1日の最後にまとめてやることにしていました。理論では、テキストに全てを一元化し、答練や模試、学校の授業で新しく学んだものをテキストにドンドン追記し更新しました。計算は間違えた部分をミスノートにまとめ、試験前に見るようにしていました。私は毎朝食のメニューまで決めていましたが、このように生活と勉強のルーティンを作り出すことで本番でも安定した精神状態で受験に臨むことができました。

後輩へのメッセージ

会計研究科に入学して公認会計士試験を受験するにあたり、良かった点が二つあります。一点目は、モチベーションの高い受験生が多いということです。私は大学4年が始まるタイミングで受験勉強を始めました。学部では会計士試験の勉強をしている人は自分以外におらず、一般の会計士受験生の勉強量や勉強方法がどれほどのものか分からない状況でした。そのため、大学4年の12月に受験した短答式試験では、全体としても50%程度の得点でした。会計研に入学後は、受験生が多く自分の受験に対する本気度が足りないことが明らかとなり、より強度を上げて勉強するようになりました。その結果、会計研1年の5月の短答式試験では69%で残り4%落ちとなり合格の兆しが見え、12月の短答式試験では76%を取って無事突破することができました。論文式試験でも周りの友達のレベルが高く、彼らに必死について行けるように勉強することで、自分のレベルも上がって行き大学院2年の8月に合格することができました。二点目は、授業の幅の広さです。短答式試験の準備としては、各科目を体系的に学ぶ基礎的な授業や各論を学ぶ授業で、予備校とは違った角度から理解を深めていきました。論文式試験の準備としては、ワークショップの授業を通して、知識をどのように実践的に活かすかを学ぶための思考力が身につきます。また、国際会計基準や統計を学べるので、試験に有効な知識を多く吸収することができます。会計士試験ではIFRSの論点や、経営学での統計的な論点も出題されるので、他の受験生に差をつけられること間違いなしです。ぜひ皆さんも会計研に入学して、受験仲間をたくさん作り合格を掴み取ってください。応援しています。

会計専門コース1年
浜崎 愛子

試験対策

私の試験対策を計算と理論に分けて紹介します。
まず、計算については、難しい問題と基礎的な問題の見極めができるようにすることと、基礎的な問題を確実に正解できるようにすることです。難しい問題とは、一般的な受験生にとって解くことが困難である、あるいは解答に相当な時間を要するような問題のことです。一方、基礎的な問題とは、受験生の50%以上が解けそうな比較的簡単な問題のことです。私は、答練や模試で計算問題を前から解く癖がついていました。そのため、難しい問題に必要な以上の時間をかけてしまい、基礎的な問題を解く時間が無くなり、思うように点数を伸ばせない経験を何度もしました。公認会計士試験は、難しい問題だから得点が高いというわけではありません。これを念頭に置きながら、基礎的な問題から解いていくことを徹底しました。

次に、理論についてです。短答式試験では、選択肢の誤っているポイントを指摘できるようになることと、教科書に情報を一元化することを実行しました。誤りのポイントを確実に指摘できない場合、僅かな表現の違いや、解いたタイミングによっても、自身の解答が変わってしまうことがあるので、答練や模試の復習等で、誤りのポイントを確実に指摘できるようにしました。また、それらのポイントの全ては教科書に集約することで、答練や模試の復習は1回で済み、後は教科書を見るだけで、教科書、問題集、答練や模試の内容を反復することができます。

論文式試験では、丸暗記よりも理解することを意識しました。丸暗記よりも理解が重要と考える理由は、理解しようとする姿勢で学習していると、重要な単語や汎用性のある言い回しが分かり、丸暗記の量を抑えても、論述できる実感があったためです。これを徹底することで、本試験でも問題に素直に解答することができました。

後輩へのメッセージ

私は、一度論文式試験に落ちて悔しい思いをしました。今振り返ると、短答式試験までは一人で乗り切ることができたのに、そこから論文式試験までの道のりがとても長く感じ、孤独との戦いに負けてしまったことが一番の原因だと考えています。会計研に入学した4月からは勉強仲間ができて、受験生にとって最適な環境の自習室で勉強することができたので、8月まで走りきることができました。会計研には、会計プロフェッショナルを目指す同志や、既に会計士としてのキャリアを積んでいる先輩方がたくさんいます。会計研の仲間とともに、一緒に頑張りましょう！